

重点目標	評価項目	基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価	コメント 評価結果に関する説明・意見等
身近な環境に親しみ、好奇心や探求心を持って関わり、よく考える子	【0, 1歳児】 安全で安心な保育空間をつくる	4	子どもの姿に応じながら環境の構成をする	3.0	4	好きな遊びをみつけて楽しむ	4.0	A (3.5)	・毎日の生活、遊びの中で、保育者と一対一の関わりをもったり、一緒に遊んだりすることで信頼関係ができて、園が安心できる場所となっていた。 ・自分の好きなもの、お気に入りの遊びを見つけて遊ぶようになった。「これがいい」「やりたい」と、言葉をやりとりして遊びが楽しめるようになった。 ・今後はさらに子どもの成長に合わせて、環境構成に変化を持たせるようにしていきたい。
		3	応答的なかわりかわりで子どもが楽しめるようにする		3	自分で遊びを楽しむ			
		2	一人ひとりに寄り添い安心感が得られるようにする		2	保育者に見守られ、遊びを楽しむ			
		1	安心できる場所をつくる		1	保育者のそばで安心して過ごす			
	【2歳児】 身近な環境に触れ、興味を持って関わられるようにする	4	自分で遊びを見つけられるような環境設定をする	3.3	4	身近なことに関わりやってみようとする	3.7	A (3.5)	・保育者が、子どもと一緒に遊びを楽しむ中で、安心して過ごせる環境を作っていく、子どもの姿を見ながら遊びが発展するよう関わっていた。 ・毎日繰り返し遊ぶことで、子どもたちのやってみようという気持ちが高まり、友だちを意識し関わりがもてるようになった。遊びの中での工夫もみられるように成長していった。
		3	個々の遊びを見守り環境をととのえる		3	やりたい遊びを見つけて遊ぶ			
		2	思いのまま遊べる環境づくりをする		2	保育者と一緒に遊ぶ			
		1	安心して遊べる雰囲気づくりをする		1	安心して過ごす			
	【年少組】 生活の中で様々なものに触れ、発見を楽しめるよう環境を整える	4	幼児の気付きや発見のできる環境の構成をする	3.0	4	好きな遊びを繰り返し楽しむようになった	3.8	A (3.4)	・日々の子どもの姿の中で、何に興味を持ち遊ぼうとしているのかに気づくようにしてきた。それを保育の中に取り入れ遊びが広がるように心がけた。 ・身近にある紙や自然物に興味を持ち、それを使って制作したもので友だちとごっこ遊びを楽しむ姿が多く見られ、友だち関係が広がっている。 ・今後も職員間で子どもの育とうとする姿を共有し、教材を研究して試行錯誤する環境を整えていきたい。
		3	幼児の興味関心を共有して保育に取り入れる		3	身近なものを遊びに取り入れるようになった			
		2	幼児の発見や気づきに共感する		2	触れたり、試したりするようになった			
		1	身近なもので遊べるよう、手に取りやすいように準備する		1	身近なものに興味を持つようになった			
	【年中組】 子どもの姿から興味・関心が何にあるかを捉え、教材や環境構成を工夫する	4	幼児の気付きや発見を取り上げ、全体で共有できるようにする	3.7	4	幼児が遊びの中で様々なもの・ことに興味を持ち、遊びに取り入れるようになった	3.7	A (3.7)	・少人数の子どもがしている遊びを、クラスの話し合いで取り上げると、その遊びにみんなが関心を持ち全体での遊びに広がるのが何度もあった。子どもの姿を見て、発展するきっかけづくり、援助の大切さを感じた。 ・子どもが興味を持っていることに保育者も関心を持ち一緒に遊ぶことで、さらに遊びが広がっていった。 ・友だちのしている遊びに関心を持ち関わり一緒に遊ぶことで、友達の輪が広がった。
		3	幼児がいろいろな環境の中で、遊びこめるような環境づくりをする		3	幼児が友だちと一緒にいろいろな遊びを楽しむようになった			
		2	幼児が何に興味・関心があるのかを捉える		2	幼児がやりたいこと、興味があることを見つけるようになった			
		1	幼児と一緒に遊び、遊びに関心を持つ		1	幼児が園生活をのびのびと過ごせるようになった			
【年長組】 幼児一人ひとりが探求心をもって自己発揮しようとする環境の構成をおこなう	4	幼児が興味・関心を追求できるよう適切な援助をする	3.3	4	友だちと共通の目的に向けて工夫したり、協力したりし、充実感を持ってやり遂げるようになった	4.0	A (3.7)	・子どもに寄り添い、遊びの中に入ることで、常に子どもの興味・関心に気付くように心がけた。そこで気づいたことを職員間で話し合い共有し、遊びの中に取り入れるようにしていった。 ・子どもの興味あることを学年の活動に取り入れることで、活動内容がおもしろく、盛り上がり、子どもたちの自己発揮につながっていったと思う。	
	3	幼児の育ちを捉え、さらに育ってほしい姿を話し合い、理解を深める		3	自分なりに工夫したり、友だちの真似をしたりして遊びを楽しむようになった				
	2	幼児が何に興味・関心があるかを捉え環境構成をしていく		2	幼児がやりたい遊びを繰り返しやってみようとするようになった				
	1	幼児と一緒に遊び、幼児の気づきに共感する		1	幼児がやりたいこと、興味があることを見つけるようになった				
総括	・保育者は毎日の振り返り、学年ごとの反省にじっくり取り組み、次に力を入れるポイントや課題を明確にして、保育につながる事ができた。 ・日々の保育で子どもの遊びの様子を見取り、育ちつつある姿を捉え、保育に反映することができた。今後も本園の特色を活かし、良質な遊びの環境を検討、実践し、子どもの豊かな学びにつなげていきたい。								